



令和元年(2019年)8月8日

各 位

会社名 第一商品株式会社  
代表者名 代表取締役社長 正垣達雄  
(JASDAQ・コード8746)  
問合せ先 取締役総務本部長 岡田義孝  
電話番号 03-3462-8011(代表)

## 令和2年3月期 第1四半期業績見通し 及び 特別損失の計上 に関するお知らせ

令和2年3月期第1四半期の業績見通し(速報値)を前年同期実績と比較してお知らせいたしますとともに、特別損失の計上につきましても下記のとおりお知らせいたします。

### 記

#### 1. 令和2年3月期 第1四半期累計期間の個別業績見通し (平成31年4月1日～令和元年6月30日)

(単位:百万円)

	営業収益	営業利益	経常利益	四半期純利益
令和2年3月期 第1四半期 (当四半期速報値)	943	△21	△17	△52
平成31年3月期 第1四半期 (前年同期実績)	876	△159	△153	△162
増減額	67	138	136	109
増減率(%)	7.7	—	—	—
平成31年3月期 通期 (前年同期実績)	3,538	△327	△285	△310

#### ・業績見通しについて

当社の主力である商品先物取引事業における受取手数料が増加し、営業収益は943百万円(前年同期比7.7%増)となる見通しです。経費抑制は継続して行っておりますが、営業損失は21百万円(前年同期は159百万円の損失)となる見通しです。

経常損失については17百万円(前年同期は153百万円の損失)となる見通しです。また、後掲の固定資産減損処理で29百万円の損失、商品取引責任準備金の戻入と繰入の差引分が約2百万円の損失となるなど、四半期純損失は52百万円(前年同期は162百万円の損失)となる見通しです。

なお、これらの速報値につきましては、現時点での合理的判断による見通しであり、実際の業績数値とは異なる可能性があります。

#### 2. 特別損失の計上

当社は継続して営業損失を計上しており、当社の保有する固定資産の一部について、帳簿価格を回収可能価額まで減額し、当該減少額29百万円を減損損失として当第1四半期に計上いたします。なお当該損失は、上記業績見通し及び第1四半期決算短信に反映されております。

#### 3. 今後の見通し

現在、本件以外に開示すべき事項はありませんが、新たに開示の必要性が生じた場合には適宜公表いたします。

以上